

# 中学校数学科グループ研究会

グループ員：古谷 俊樹(笹原中学校) 森本 大地(北中学校)  
菅 剛久(東中学校) 中辻 紘生(西中学校)  
田名瀬 雅史(南中学校) 坂本 泰朗(天王寺川中学校)  
岡田 和也(松崎中学校) 米倉 正朗(荒牧中学校)

担当指導主事：長谷 慎一

キーワード：全国学力・学習状況調査 数学的思考の「見える化」 授業力向上 ICTの活用

## 1 研究テーマ

「活用する力を伸ばす授業の工夫」

基礎・基本の定着と数学的思考の「見える化」を目指して

## 2 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業改善の推進

- ① 全国学力・学習状況調査結果分析
- ② ICTの活用
- ③ 学習環境づくりと家庭学習の充実

(2) 数学科教員の資質向上

- ① 若手教員の育成
- ② 夏季研修
- ③ 先進校視察

(3) 小中連携

- ① 新入生テストの分析・作成
- ② 入学前課題の作成
- ③ 研究授業における交流

(4) 研究会の実施内容

- |     |        |  |
|-----|--------|--|
| 第1回 | 5月30日  | 年間計画の作成<br>市内全体会総会準備<br>全国学力・学習状況調査問題分析  |
| 第2回 | 7月2日   | 全体会総会でいったグループ討議内容の確認<br>伊丹市数学科夏季研修会の打ち合わせ  |
| 第3回 | 8月6日   | 伊丹市数学科夏季研修会<br>グループ討議「授業力向上にむけて アイデア編」<br>講話「新しい時代の数学授業のつくり方」<br>講師：武庫川女子大学 教授 神原 一之 氏 |
| 第4回 | 9月5日   | 全国学力・学習状況調査結果分析<br>公立高等学校推薦入試問題解答集作成   |
| 第5回 | 10月3日  | 全国学力・学習状況調査結果分析  |
| 第6回 | 11月7日  | 2学年学習理解度調査問題作成・検討  |
| 第7回 | 12月19日 | 平成31年度研究小冊子の検討<br>2学年学習理解度調査問題作成・検討  |
| 第8回 | 1月14日  | 中学校教育研究会数学科部会研究発表会についての打ち合わせ   |
| 第9回 | 2月25日  | 次年度に向けての準備   |



### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 今年度も伊丹市として「全国学力・学習状況調査」の全国平均を上回る結果を得た。昨年度は、全国学力・学習状況調査の問題を利用した各校の授業計画を立て、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善から、学力向上への意識を各校で高めることができた。今年度もそのノウハウを生かして、各校で同様の内容の授業計画を立てて、更なる発展を目指して意識を高めることができた。
- ② 今年度の夏季研修会において、「学力向上のための授業づくり」のために、「授業アイデア」についての研修を行った。各自の指導案を持ち寄り、グループ討議を行うことで授業づくりには欠かせない「アイデア」や「授業のネタ」について深めることができた。  
また、中高一貫校の視察を行い、今後の研修のあり方について考える機会を得た。
- ③ 中学校に入学してくる児童の学力状況を測るため、新入生テストにおける経年比較を行い、算数科での課題を把握することで、学力向上のための対策に生かすことができた。また、新入生テストの各設問分析を行うことで、3年間の学習支援に対する見通しを立てることができた。

#### (2) 課題

- ① 「ICT の利活用」では、学校の ICT 環境整備が進んでいる反面、それらの機器に対して効果的な活用ができる教員が少ないといった課題が明らかになっている。今後は、積極的に ICT 活用の研修を取り入れた授業を行い、検証していくなど、PDCA サイクルの充実等を進めていく必要がある。
- ② 「全国学力・学習状況調査」において、今年度の伊丹市は全国平均をやや上回った。これは本市数学科としての研究の成果だと捉えている。しかし、学習状況調査において「数学の授業は好き」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「数学の授業で学習したことを将来、社会に出たときに役立てる」等の質問項目がこの4年間、全国平均を下回っている。数学の授業で学んだことを普段の生活でどのように活用するかという視点を持って、研究を重ねていく必要がある。
- ③ 「中1ギャップ」の解消のために、新入生テストにおいて経年比較を行い、実態把握に努めている。さらに、テスト結果を分析し、新入生に対しての学力保障ができるよう、更に研究をしていく必要がある。